

平成 25 年度

厚生労働省保健指導支援事業人材育成事業

保健指導ミーティングの開催  
実施報告

公益社団法人 日本看護協会

平成 26 年 3 月

## 目次

1. 背景 .....	1
2. 保健指導ミーティング趣旨・実施経過等 .....	1
3. 平成 25 年度実施状況 .....	2
4. 平成 25 年度 各県(4 県)のミーティング実施結果のまとめ .....	6
平成 25 年度 実施 4 県の実施状況等の概要 .....	8
5. 平成 25 年度までの取り組み .....	10
6. 今後の保健指導ミーティング開催に向けて .....	11
7. 保健指導ミーティング県別実施報告 .....	13
開催地：4 県分 .....	13
開催地：茨城県分 .....	15
開催地：栃木県分 .....	23
開催地：石川県分 .....	35
開催地：岐阜県分 .....	43
資料 .....	51

## 1. 背景

---

生活習慣病予防のためには、単なる知識の提供のみにとどまる保健指導では、人々の行動変容への期待はできない。効果的な保健指導を行なうためには、まず、保健師自身が指導のプロセスや自らの実践を振り返り、不足を補い、力量を高める必要がある。こうした実践力向上のためには、机上での知識伝達の講義を受講するだけでなく、多様な場で活動する保健師の相互支援と情報共有のしくみが不可欠であり、領域を越えた保健師の連携強化とネットワーク構築は重要な課題となってくる。

平成 20 年 4 月より「特定健康診査・特定保健指導」が開始され、効果評価も行なわれ始めている。また、健康日本 21(第 2 次)では健康寿命の延伸、糖尿病をはじめとした生活習慣病の重症化予防が挙げられ、国民の健康づくり、とりわけ生活習慣病予防対策においては、改めて保健師の役割が期待されているところである。

こうした課題に対応するため、本会では地域保健活動の普及と充実をはかることを目的に、平成 20 年度から、厚生労働省より「保健指導支援事業人材育成事業」を受託し事業を行なってきた。具体的には、保健指導のスキルアップと保健師同士のネットワーク強化をねらいとした「保健指導ミーティング」の企画・開催で、平成 25 年度で 6 年目を迎えた。

## 2. 保健指導ミーティング趣旨・実施経過等

---

### 1) 趣旨

「保健指導ミーティング」は、①保健師の実践事例発表、②保健師同士のグループ討議を主たる内容とし、日本看護協会と各都道府県看護協会とが協働して企画・実施する事業である。行政分野の保健師のみに留まらず、産業や医療・福祉・教育機関の保健師も含めて一堂に会し、お互いの実践を振り返り、スキルアップを図ることにより、保健師の専門性を発揮するための基盤強化を目指す研修プログラムである。

今年度は、これまでの 5 年間の事業を見直し、各都道府県看護協会の意見も参考に、新任期及び指導保健師を主な対象とした保健指導ミーティングの企画・実施とした。

### 2) 開催テーマ

本会では保健指導ミーティングを、2 タイプ（タイプ 1：生活習慣病予防と、タイプ 2：それ以外）に分けて企画・実施している。

#### ① タイプ 1：生活習慣病予防(厚生労働省保健指導支援事業)

保健指導ミーティング開始にあたり、保健指導に従事する各領域の保健師が一堂に会し、保健指導のスキルアップを図るためには、各領域の保健師に共通のテーマであると考えられる「生活習慣病予防」をテーマとすることが有効であるとしたことから始まった。

#### ② タイプ 2：その他（日本看護協会独自事業）

平成 20 年度～22 年度は生活習慣病予防のみであったが、平成 23 年度からは、都道府県のニーズや実情に合わせて、母子、精神、介護予防、災害保健活動等についても本会独自に事業を実施している。なお、本報告書では、主として上記①について報告する。

### 3. 平成 25 年度実施状況

保健指導ミーティングは、日本看護協会が全体の企画を行い、実施を希望する都道府県看護協会保健師職能委員会を公募して、協働して実施した。

#### 1) 実施期間

平成 25 年 9 月～平成 26 年 3 月末

#### 2) 保健指導ミーティングの公募について

##### (1) 公募期間

平成 25 年 7 月～9 月

##### (2) 募集要件

- ① 都道府県看護協会保健師職能委員会の企画であること
- ② 都道府県看護協会会長の理解が得られること
- ③ 都道府県主管課と連携していること
- ④ 新任期及び指導保健師（プリセプター）を主な対象とすること
- ⑤ 関係組織・団体と連携し、多様な活動領域（行政・産業・医療・福祉・その他）の保健師が参加できるように企画すると共に、周知が図られること
- ⑥ 保健指導ミーティングの評価を行うこと

##### (3) 結果

公募の結果、合計 15 県からの応募があった。うち生活習慣病予防をテーマとした保健指導ミーティング（厚生労働省保健指導支援事業）は、4 県（茨城県、栃木県、石川県、岐阜県）で実施することとなった。栃木県、岐阜県は初の実施となった。

#### 3) 保健指導ミーティング開催県一覧

開催 NO.	開催県	会議名	開催場所	開催日	開催数
1	茨城県	生活習慣病予防スキルアップ 研修	茨城県看護研修センター	2013/11/29(金)	1
				10:00～16:00	
2	栃木県	効果的な保健指導を行うための 保健指導ミーティング	とちぎ健康の森 生きがいづくりセンター 教室A	2014/1/18(土)	1
				10:00～16:00	
3	石川県	平成 25 年度保健指導ミーティング in 石川	石川県地場産業振興 センター 本館 2 階第 2 研修室	2013/12/12(木)	1
				9:30～16:30	
4	岐阜県	効果的な保健指導実践セミナー (保健指導ミーティング)	岐阜県看護協会特別研修 室	2014/1/24(金)	1
				10:00～16:00	
※開催は 4 箇所、延べ 4 回開催					

#### 4) 開催県での実施結果

##### (1) 参加者の属性(延べ人数)

(単位：人)

開催県	行政	医療	産業	福祉	その他	職能委員・運営スタッフ	合計参加人数
茨城	14	11	1	0	0	9	35
栃木	29	1	4	0	1	17	52
石川	30	3	5	0	9	15	62
岐阜	21	0	0	0	0	10	31
合計	94	15	10	0	10	51	180
(割合)	(52%)	(8%)	(6%)	(0%)	(6%)	(28%)	(100%)

##### (2) 参加者アンケートの実施結果(4 県共通項目で実施)

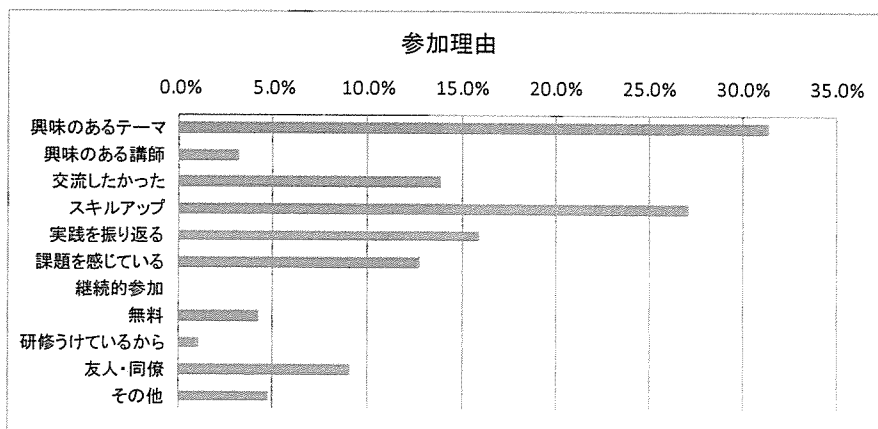
参加者アンケートの結果を以下に示す。(使用アンケート質問紙は資料 3)

###### ①参加者数および参加者の属性について

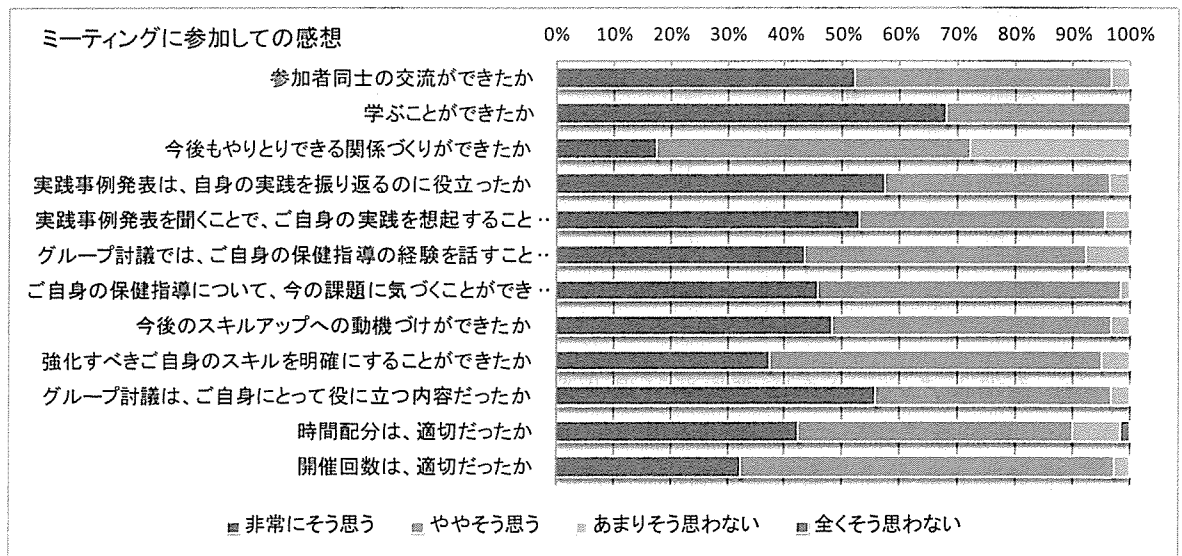
- アンケート協力者は、121 人/180 人で、回答率は 67.2%であった。
- 協力者 121 人のうち、女性は 116 人 (95.9%)、男性 5 人 (4.1%) であった。
- 年齢は、20 歳代の参加が最も多く 60 歳代までの各世代が参加した。各世代の参加割合は、20 代 (59.6%)、30 代 (18.3%)、40 代 (13.8%)、50 代 (3.7%)、60 代以上 (1.8%) であった。
- 職種は、96.7%が保健師で、看護師の参加は、3.3%であった。
- 保健師経験年数は、1 年以下が 27.3%、2 年が 18.2%、3~6 年が 37.5%であった。
- 保健師の所属は、市町村 (43.4%)、次いで、都道府県 (14.5%)、都道府県型保健所 (10.3%)、地域包括支援センター (7.6%)、健診センター・労働衛生機関 (5.5%)、教育・研究機関 (5.5%) などであった。

###### ②参加者の回答状況

- ミーティングに参加した理由は、以下のとおり。主に、「興味のあるテーマ」であったことや、「スキルアップの希望」を理由とする回答が多かった。

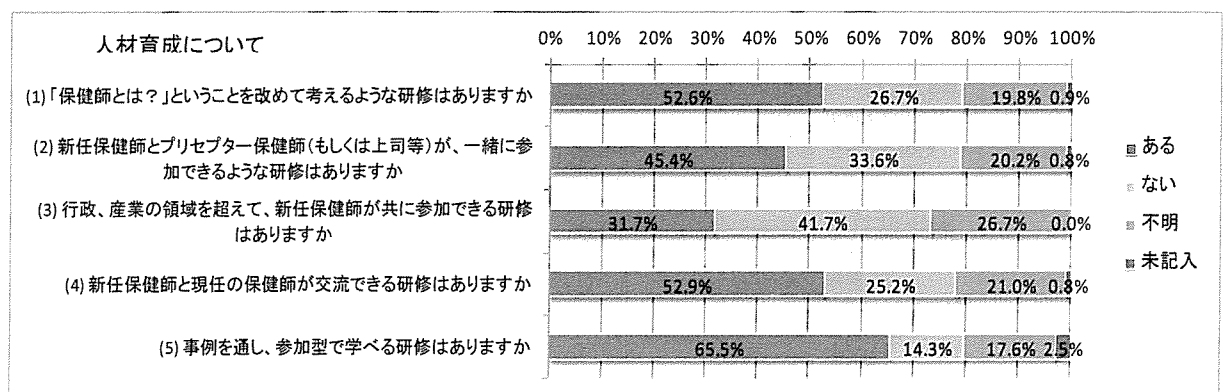


- ミーティングへの参加の感想では、「今後もやり取りできる関係づくり」以外は、非常にそう思う、ややそう思うとの回答を合わせると90%以上を占めていた。「今後もやり取りできる関係づくり」については、1回程度の交流では困難な状況が伺えた。
- 「参加者同士の交流ができた」、「学ぶことができた」、「実践事例発表は自身の実践を振り返るのに役立った」、「実践事例発表を聞くことで自身の実践を想起した」「グループ討議が役立った」などについて非常にそう思うとの回答が50%を超えた。



### ③人材育成について

- 参加者は、『「保健師とは？」ということを改めて考えるような研修の機会』について、ある(52.6%)、ない(26.7%)、不明(19.8%)と回答した。
- 参加者は、「新任保健師とプリセプター保健師(もしくは上司等)と一緒に参加できるような研修の機会」について、ある(45.4%)、ない(33.6%)、不明(20.2%)と回答した。
- 参加者は、「行政、産業の領域を超えて、新任保健師が共に参加できる研修の機会」について、ある(31.7%)、ない(41.7%)、不明(26.7%)と回答した。
- 参加者は、「新任保健師と現任の保健師が交流できる研修の機会」について、ある(52.9%)、ない(25.2%)、不明(21.0%)と回答した。
- 参加者は、「事例を通し、参加型で学べる研修の機会」について、ある(65.5%)、ない(14.3%)、不明(17.6%)と回答した。



- 参加の時期について、今回参加した保健指導ミーティングは、「新任期から参加するべき」の回答が（84.0％）で最も多く、他は「全経験年数から参加するべき（12.0％）」、「中堅期から参加するべき（2.0％）」、「管理職から参加するべき（2.0％）」であった。
- 今後希望する研修内容については、以下のような結果であった。

1. 「保健師とは？」ということを変えて考えるような研修	56	46.3%
2. 新任保健師とプリセプター保健師が、一緒に参加できるような研修	51	42.1%
3. 行政、産業の領域を超えて、新任保健師が共に参加できる研修	53	43.8%
4. 新任保健師と現任の保健師が交流できる研修	47	38.8%
5. 事例を通し、参加型で学べる研修	59	48.8%
6. その他 [ ]	1	1.7%

### (3) 企画者による企画や実施内容等の評価

以下の内容について各県の企画者から評価を得た。概ねそう思うとの回答が多かったが、それぞれの県に課題が残った。

	評価項目	評価				平均	評価基準 4.非常にそう思う 3.ややそう思う 2.あまりそう思わない 1.全くそう思わない
		茨城県	栃木県	石川県	岐阜県		
実施体制	①企画、評価の体制は整っていたか	4	3	3	4	3.5	
	②マンパワーの量は見合っていたか	4	3	3	3	3.3	
	③組織や団体、資源の有効活用ができたか	4	4	4	4	4.0	
企画	④企画の目的と目標は、一致していたか	4	4	4	4	4.0	
	⑤企画の目的と実施内容(実践事例検討会)が一致していたか	4	4	4	4	4.0	
	⑥目標と実施内容(実践事例検討会)が一致していたか	4	4	4	4	4.0	
準備	⑦目標の達成のために、実践事例の準備が行えたか	4	4	2	4	3.5	
	⑧目標が達成できるように、グループ討議の準備を十分に行えたか	4	4	2	4	3.5	
	⑨実践事例検討会が効果的にできることに配慮して、多領域に周知を行えたか	4	4	4	3	3.8	
実施内容	⑩目標が達成できるように、プログラムを進めることができたか	4	4	3	4	3.8	
	⑪目標が達成できるように、実践事例を提供できたか	4	4	3	4	3.8	
	⑫目標が達成できるように、グループ討議を進めることができたか	4	3	3	4	3.5	
	⑬紹介した実践事例は、保健師にとって、自身の実践と対比しながら検討できる内容だったか	4	4	4	4	4.0	
	⑭グループ討議は、参加者一人一人が発言できるように進めることができたか	4	4	4	4	4.0	
ネットワーク	⑮地域や産業等領域の異なる保健指導実施者との意見交換・情報交換の場となっていたか	4	4	4	3	3.8	
	⑯業務に関連する情報交換ができるような関係性を構築することができたか	3	3	4	3	3.3	
	⑰業務に関連する連携ができるような関係性を構築することができたか	3	3	4	3	3.3	

#### 4. 平成 25 年度 各県(4 県)のミーティング実施結果のまとめ

(注)25 年度に実施した 4 県の実施については、概要(P8)および県別実施報告 P(13～)を参照。

##### 1) ミーティングの実施状況

- 平成 25 年度は、4 県の実施があり、そのうち 2 県は今年度が初めての実施であった。
- 参加者の延べ人数は 180 人で、このうち 28%に当たる 51 人が運営にあたった。
- 行政からの参加が 94%と最も多く、他の領域からの参加は医療(8%)、産業(6%)であった。
- 今年度、初開催の栃木県では、事前準備のために職能委員会を 4 回開催した。また、協働企画者として県の看護関係の主管課に依頼しコーディネーターの役割を担ってもらう、看護学部を持つ大学の学部長に講師を依頼し事前打ち合わせにも加わってもらうなどし、保健指導ミーティングの円滑な実施の工夫をした。
- 岐阜県でも、事前の保健師職能委員会で、目的や、進め方について十分な議論を行ない、職能委員間で課題をしっかりと共有して行った。
- 継続的にミーティングを実施している県でも、過去の成果や反省を踏まえて事前準備を十分に行って実施した。例えば、茨城県は 5 回目の実施となるが、ミーティング準備のために職能委員会と事前会議を各 2 回開催した。また、ファシリテーションスキルを上げるために、10 月にファシリテーション研修会を開催した。
- 石川県も 5 回目の実施となるが、今回は、県に対し後援許可申請し協力を得た。これにより、県及び関係機関市町が、看護協会の研修会を人材育成のための研修会として認め、新任期の保健師等の参加を容認する結果となり、平日の実施にもかかわらず 37 人の保健師の参加が得られた。

##### 2) 周知(募集)の工夫について

- 幅広い領域から対象者を集めるため、県ごとに周知(募集)ルートの拡大に取り組んでいた。具体的には、県、市町村、職能関係団体への周知のほか、栃木県では、県に依頼し、保健師の勤務先データを取得していた。石川県では、平日開催を試みたが、県の協力を得られたことが多数の参加者を得た理由としていた。また、企業等保健師に職能委員を通して周知を図っていた。
- 広報手段としても、郵送・メール・FAX のほか、職能委員長および職能委員による直接の呼びかけなどが行われていた。
- 広報媒体の利用・開発についても、県協会の広報誌、職能委員会のお知らせを利用するほか、実践事例内容やグループ討議の内容を検討したうえで、その検討をふまえて募集チラシを作成していた。

##### 3) 各県でのプログラムの内容

- 新任期保健師の実践事例発表を踏まえたグループ討議という、本ミーティングの形式は維持しつつ、参加者のスキルアップの動機づけ及びネットワークの強化に向けて、各県が様々な工夫をしていた
- 実践事例発表での工夫について、例えば岐阜県では、参加者全員に事前に事例提出を求め、



職能委員が査読後発表者を決定していた。栃木県では、生活習慣病以外にも事例検討テーマを設けたため、グループごとに実践事例を発表し、グループワークに入っていた。茨城県では全員がロールプレイを体験した。

- 4 県とも、昼食時間に参加者同士の交流が図られるよう、昼食時間を長めに設定する、同じ弁当を準備するなどの工夫があった。

#### 4) ミーティングの評価・効果等について

- 4 県のアンケート結果から、「学ぶことができた」「自身の実践を振り返ることができた」ことがわかった。
- 休憩時間や昼食時間を長めにとることで活発な情報交換ができた」（茨城県、石川県）といった工夫の成果が出た県もあった。
- 茨城県では、自発的な理由での参加が多かったとしていた。また、今後は県をはじめ関係機関と連携し、県内保健師の人材育成のひとつとして位置づけられるよう取り組んでいく、としていた。
- 栃木県は、概ね参加者の満足度は高く、次年度の保健指導ミーティング開催への参加についても 92.7%が参加すると回答しており保健指導ミーティング開催の期待が高いことがわかった、としていた。
- 岐阜県では、参加者一人一人が明日から何にどう取り組むか考えるきっかけとなったとしていた。また、事前の職能委員会で目的や進め方について十分な議論をし、課題の共有ができていたため、職能委員の達成感、充実感も大きかったとしていた。

#### 5) その他（今後の課題等）について

- ネットワーク強化に関しては、「産業、地域包括、福祉関係機関の保健師をどう巻き込むかについて次年度の課題としたい」（岐阜県）、「参加者同士のネットワーク構築は達成できたとは言い難い」（栃木県）、などの課題が出た。
- 石川県では保健指導ミーティングの企画において目的と目標が一致しておらず、事前準備と実施内容について課題を残していた。

#### 6) 成果の普及

公式 HP で公表予定

平成 25 年度 実施 4 県の実施状況等の概要(その 1)

県名 (回) 参加者数	茨城県 (5 年目) 35 人	栃木県 (初) 52 人	石川県 (5 年目) 62 人	岐阜県 (初) 31 人
①ミーティング準備の実施状況	<p>保健師職能委員会開催(2 回)</p> <p>①実施時期及び内容について検討</p> <p>②実施計画内容の確認、事前会議に向けての打合せ</p> <p>保健指導ミーティング事前会議開催(2 回)</p> <p>①実行委員と企画内容の共有と具体的な内容の検討</p> <p>②事例内容の確認、運営等を決定</p>	<p>保健師職能委員会開催(4 回)</p> <p>①栃木県で初めて開催する保健指導ミーティングについて、保健指導ミーティングとはなにか、職能委員間で目的や内容について情報共有し、計画したテーマ及び事業内容の確認</p> <p>②実施日と実施要項の検討、受講者の募集について検討</p> <p>③保健指導ミーティングの実践事例の具体的な内容について検討、確認</p> <p>④保健指導ミーティング実施についての進め方及び実践事例発表等の具体的な内容について確認</p>	<p>保健師職能委員会開催(2 回)</p> <p>①保健指導ミーティング実施計画の立案</p> <p>②当日の進行の確認</p>	<p>保健師職能委員会開催(1 回)</p> <p>・事例報告の読み取りを行い、発表内容の加筆修正の依頼</p> <p>・11 月 25 日保健師研修会において実施したグループワークのファシリテーターを実施しての反省とグループワークの進め方、ファシリテーターとしての役割を再確認</p> <p>・グループ編成とグループワークのねらいを確認</p> <p>・参加者名簿、レジュメ、グループワーク資料の準備</p>
②周知(募集)の工夫	<p>・行政:看護協会から保健所と市町村に通知</p> <p>県人材育成担当者から保健所と市町村に開催のお知らせ</p> <p>・産業:看護協会から保険者協議会会員に通知</p> <p>産業保健師看護師連絡協議会に開催案内(職能委員長からメール)</p> <p>・医療:看護協会から会員所属の長及び保健師担当に通知</p> <p>・その他:協会員の所属する機関および個人会員に看護協会から通知</p>	<p>・実施要項を栃木県看護協会のホームページにアップし広く周知</p> <p>・行政、産業、医療、福祉、その他の保健師の所属する勤務先(会員外も含む)に看護協会から郵送にて開催通知を送付し周知。</p> <p>※今年度、保健師の会員拡大を狙い保健師の所属する勤務先に調査を実施した。調査の送付先は 2 年に 1 回実施する従事者届けの送付先を県に依頼しデータを取得。そのデータを活用し開催通知を送付。</p>	<p>・県健康福祉部健康推進課に後援を依頼し協力を求めた</p> <p>・県看護協会から保健師会員の 39 施設長に文書発出</p> <p>・行政機関(市町・保健福祉センター等)総括的保健師にメール発信(計 3 回実施)</p> <p>・各企業等産業保健師に産業保健師統括者(保健師職能委員)からメールにて案内</p> <p>・石川県保健師長会理事、3 看護大学にメールにて案内(大学は学生掲示板に添付し紹介)</p>	<p>・各市町村(保健センター・包括支援センター・市役所等)、保健師が勤務する施設及び県保健所へ案内を送付</p> <p>・県保健師指導担当者から県保健所・市町村の統括的役割を担う保健師へメールにて周知</p> <p>・保健師職能委員会活動情報通信「Pretty Health News 番外編」を作成し、県保健所・市町村へ配布</p>
③実践事例発表で取り上げた事例	<p>①協会けんぽの人材育成の実際</p> <p>人材育成の取り組み(個人スキル育成のための研修会)の紹介</p>	<p>参加予定者すべてに実践事例の提出を依頼したのち、発表事例選定のポイントの検討及び事例の選定ための査読など事前準備を行った。</p> <p>①精神保健:精神疾患と難病を併せ持ち経済的に困窮しており、生活していく上で課題をたくさん抱えている事例</p>	<p>新任期保健師活動の実施報告(特定健診・健康管理・母子保健から)</p> <p>「金沢市における特定健診保健指導の実践から」</p>	<p>「中津川市における受動喫煙防止の取り組み」</p> <p>禁煙の個別支援において指導が困難であつが、上司の支援のもと、関係者・関係団体の協力を得るために、根拠・目的・方法を説明できるよう計画をたて実践した事例</p>

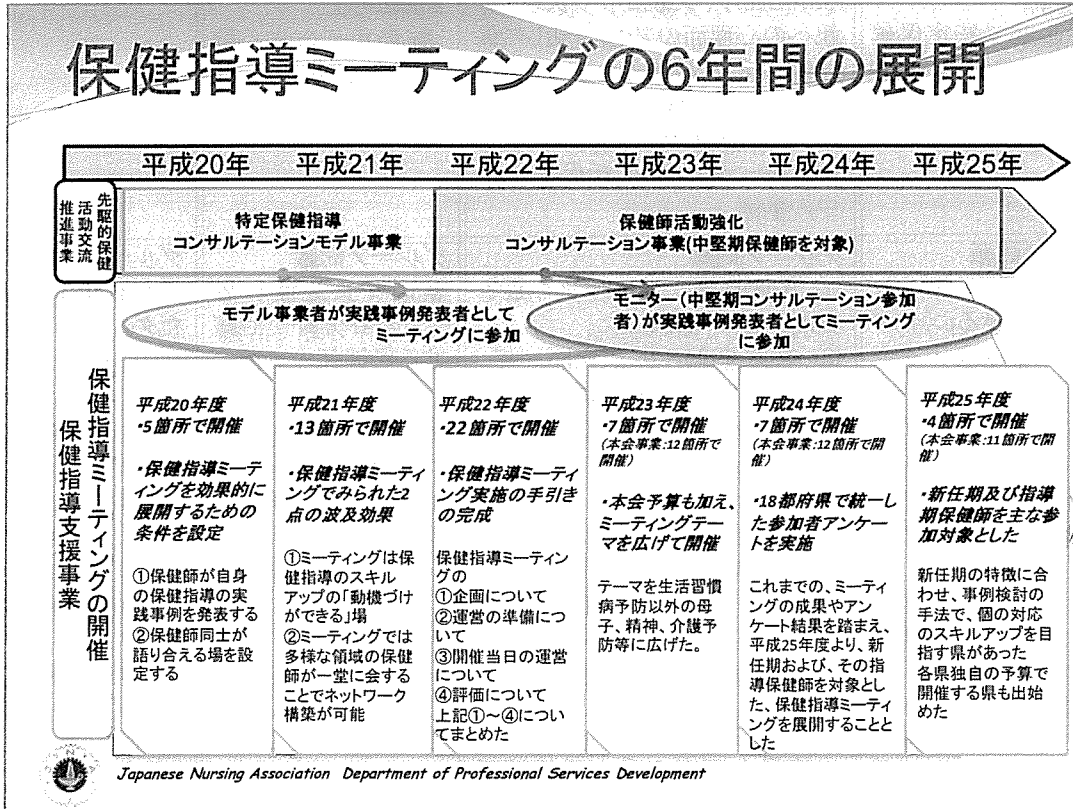
平成 25 年度 実施 4 県の実施状況等の概要 (その 2)

	茨城県 (続き)	栃木県 (続き)	石川県 (続き)	岐阜県 (続き)
③ 実践事例発表で取り上げた事例 (続き)	②セルフモニタリングが減量に活かされなかった事例 2 年連続で特定保健指導の対象となった 50 歳代男性への 6 ケ月間の支援した経過	② 母子保健:1 歳 6 ヶ月健診にて言葉の遅れがあり経過観察となった児の、父親がうつ状態。母親への心理面のフォローとして保健師の介入が開始となったが、電話のみでの関わりだった事例 ③ 生活習慣病:複数の疾患を併せ持つ独居で生活保護受給中の事例	「大学保健管理センターでの保健活動の実践から」 「輪島市における母子保健活動の実践から」	
④ プログラムの工夫点	グループ討議 ① 全員がロールプレイを体験できるようにグループ構成を工夫した。 ② 自分で考え、グループで発表し、その後、全体で共有することにより理解を深めることができた。 ③ ホワイトボードを活用して、参加者の意識を集中させた。 ④ 最後に、自分の言葉でこれからの目指す保健指導について話をする時間を設けた。	グループ討議 ① 保健指導ミーティングの趣旨を再確認して開始した。 ② 実践事例の発表を聞いて、参加者の自らの保健指導の振り返りをさせるために事例の共通の話題をさがし、参加者にその度投げかけた。 ③ 参加者が発表された実践事例の理解が深まるよう事例の状況現象についての質問時間を多くとった。 ④ 全員が必ず意見を言うように声かけていった 企画 ①協働企画者の県の看護関係の主管課にコーディネータの役割を担ってもらった。 ②看護学部を持つ大学の学部長に講師を依頼し事前打ち合わせに加わって頂いた。	グループ討議 講師や実施報告者である各分野で活躍する保健師の実態から、新任期保健師教育と保健師養成実習の問題点が明らかになるよう、気づきと課題を引き出すようファシリテーターが助言	グループ討議 ①保健師研修会で実施したグループワークの振り返りをふまえ、ファシリテーターとしての心構えを事前に話し合い、グループワークがスムーズに行えるように準備した。 ② グループは、意見が出しやすいように、経験年数を考慮し編成した。 ③ グループワークの前に、参加者に対し、今回の討議のテーマやねらいを説明し討議しやすいようにした。 ④ 参加者が発言しやすいような雰囲気づくりにこころがけた。 ⑤ 解決策や結論を求めのではなく、参加者が感じたことを自由に語ってもらえるように声掛けをした。
⑤ ミーティングの評価・効果等	・自発的な理由による参加が多かった。 ・テーマ体制の積み重ねを大切に実施できたので、内容が充実したものとなった。  ・領域が異なる保健師同士のグループ討議であり、休憩時間も意識して心持ち長くとったため活発に情報交換できていた。	・行政のみならず、県内の保健師が所属している勤務先に周知を図ったことで、他領域から参加者を得ることができた。 ・コーディネーター、ファシリテーター、講師による事前打ち合わせを開催し、プログラムの内容、進行、役割分担について確認したのち実施した。 ・各参加者から発言があり、アンケートの結果から、保健指導の振り返り、保健指導を語る、保健指導スキルを高めるといった目標が概ね達成していることを確認した。 ・次年度の保健指導ミーティング開催への参加についての期待が高いことが分かった。	・これまでは、土日の勤務時間外に実施してきたが、今回は平日勤務時間内の企画実施を試みた。また、初めて県の後援をとることにより、県の協力を頂いた。このことによって、県及び関係機関市町が、看護協会の研修会を、人材育成のための研修会として認め、新任期の保健師等参加を了解したことは、研修企画が的を得ていたと判断する。	・参加者一人ひとりが、明日から何にどう取り組んでいくか、スキルアップの目標は概ね達成できた。  ・事前の職能委員会で目的や進め方について十分な議論をし、課題共有できていたため、職能委員の達成感、充実感も大きかった

5. 平成 25 年度までの取り組み

1) 保健指導ミーティングの実施経過(6年間の展開)

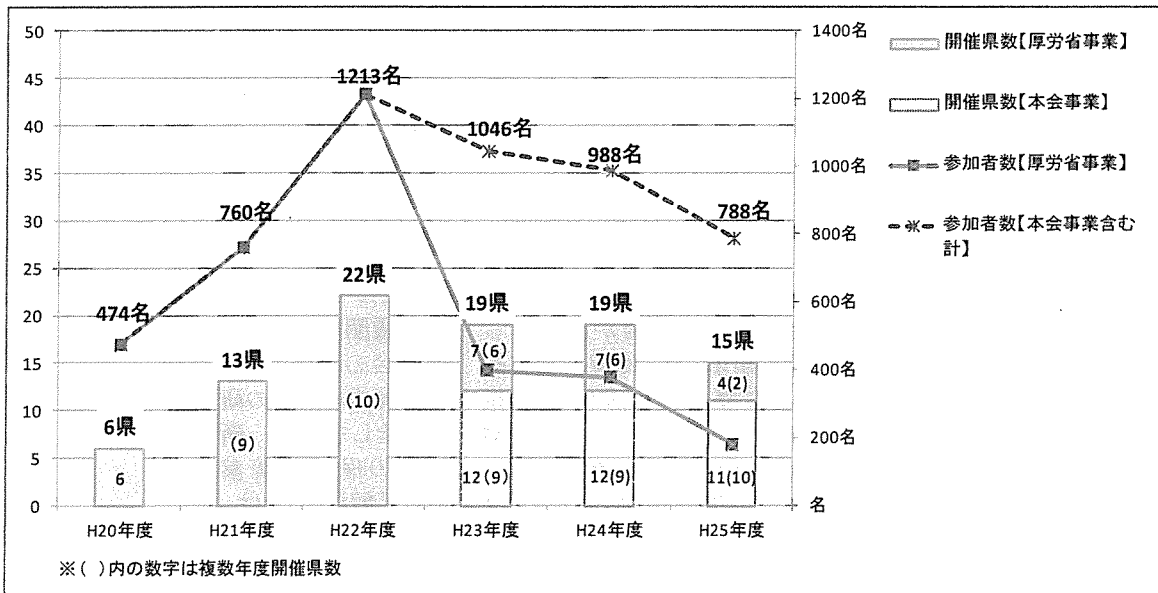
保健指導ミーティングの開催にあたっては、厚生労働省先駆的保健活動交流推進事業との連動も考慮し、より効果的な実施を図ってきた。



2) 平成 25 年度までの開催状況

H20～H25 年度に、全国 37 箇所 (78.7%) で開催し、延べ 5,269 人もの保健指導実施者 (保健師等) が参加した。H25 年度は、初開催地が 4 県 (北海道、栃木、埼玉、岐阜) あり、開催地の広がりも続いている。

また、これまでに実施した県のうち、保健指導ミーティングとして、各県の独自予算で開催した県があるなど、各県の事情に応じた取り組みも見られるようになった。



## 6. 今後の保健指導ミーティング開催に向けて

### 【今年度の実施】

平成 25 年度は、これまでの 5 年間の事業を見直し、各都道府県看護協会の意見も参考に、新任期及びプリセプター（指導保健師）を主な対象とした保健指導ミーティングの企画・実施とした。生活習慣病を主なテーマとした県は 4 県で、うち 2 県は今年度が初の実施であった。

各県では、事前の会議にて、目的や進め方について十分な討議をし、発表者を交えた事前打合せやグループワークを円滑に進めるためのファシリテータ研修を行う、発表事例の選定等を工夫する、などの取り組みをしていた。その結果、「自身の実践の振り返りができた」、「強化すべきスキルがわかった」というアンケートの回答が多く得られ、スキルアップの動機づけに効果があったといえる。

周知についても、看護協会の広報のみに留まらず、人材育成として県との連携を積極的に行ない、周知の依頼をするなどの工夫が見られた。

### 【課題】

一方、今年度から、主とする対象を新任期及び指導保健師としたことで生じた課題があった。

#### 1. グループワークの進め方

新任期同士が主に集まるため、「十分にグループ討議で話せなかった」といったアンケートの回答もあり、グループワークに対する慣れや経験の積み重ねが十分でない点を考慮し、今後、参加者が十分に話せるような工夫がさらに必要と考えられた。また、保健指導ミーティングの趣旨や目的の共通理解のために、会の開催前やグループワークの開始前などにオリエンテーションを行うことも有効と考えられた。

#### 2. ファシリテータの育成

ファシリテータ研修会や勉強会などで事前準備をしている県もあるように、参加者の発言を促し、グループワークを円滑に進めるためにはファシリテータが重要な役目となる。今後は、特に、ファシリテータの育成が課題と考えられた。

#### 3. ネットワーク構築や周知の工夫

所属別にみると、今年度は、地域包括支援センターに所属する保健師の参加が増加した。周知の工夫の成果と考えられる。一方、新任期の研修が少ない産業分野や健診機関、病院等の保健師をも視野に入れ、今後は、都道府県看護協会の周知に合わせて、関連雑誌へ案内を掲載するなど、さらなる取り組みが必要と考えられる。

### 【今後の保健指導ミーティング開催に向けて】

今後の保健指導ミーティングの開催に向けては、以下が必要と考えられる。

- ・ 実践事例発表やグループワークが効果的に行なわれるための、事前打ち合わせ会や学習会などの実施や、円滑なプログラム運営のための十分な事前準備
- ・ 参加者拡大のため、各県の実施を参考に取り組みを進めるなど周知方法の工夫
- ・ 保健師同士のネットワーク拡大のために、保健師同士が話し合える環境や時間の設定の工夫



## 7. 保健指導ミーティング県別実施報告

開催地：4 県分





開催地：茨城県分

## 保健指導ミーティングの企画

### 目的

- ① 保健指導のスキルアップとネットワークの構築

### 目標（到達度）

- ① 保健指導の実践事例の検討を通して自身の指導の振り返りができる  
 ② 各々が今後強化しなければならない保健指導スキルに気づくことができる  
 ③ 新任保健師とともに実践事例の検討に加わることを通じて、新任保健師に対する今後の指導に生かすことができる  
 ④ 領域を超えてお互いの活動を知ることができ、保健師間で連携がとれる機会となる

## 保健指導ミーティングの準備

### 保健指導ミーティングのための打合せ

保健師職能委員会	
【実施日】 H25/7/25 2.時間程度 (13:30-16:00)	【実施者】 職能委員：6名  計：6名
	【実施理由】 保健師職能委員会の一年間の活動の中で保健指導ミーティングの実施時期及び内容について、他の研修との内容、時期などを検討する必要がある。
	【内容】 保健指導ミーティングは11月頃に実施する。 企画枠組みは昨年同様とする。 県の新任期人材育成研修と連動させ位置づける。 生活習慣病事例の提供を新任保健師に呼びかける ファシリテーションスキルをあげる必要があるから、10月にファシリテーション研修会を開催する。
保健師職能委員会	
【実施日】 H25/8/19 2時間程度 (15:00-17:00)	【実施者】 職能委員：6名  計：6名
	【実施理由】 保健指導ミーティングの実施計画内容の確認と事前会議に向けての打合せの検討。
	【内容】 事例提供者の確定 コーディネーター等実行委員、講演者の決定 参加対象者を新任期（1～5年）及び指導担当の中堅期とし、原則1日参加できる人とする。 中堅期コンサルテーション受講報告を内容に盛り込む
保健指導ミーティング第1回事前会議	
【実施日】 H25/9/30 2.5時間程度 (13:30-16:00)	【実施者】 職能委員：3名 実践事例発表者：2名 コーディネーター：1名  計：6名
	【実施理由】

	企画内容の共有と具体的内容の検討、事例内容の確認等を実行委員と検討する必要がある。
	<p>【内容】</p> <p>保健指導ミーティングの事業計画及び経過の共有</p> <p>事例発表内容の検討</p> <p>グループ討議のねらいと進め方の検討</p> <p>当日の運営の検討</p>
<b>保健指導ミーティング第2回事前会議</b>	
<p>【実施日】</p> <p>H25/11/7</p> <p>2.5 時間程度</p> <p>(13:30-16:00)</p>	<p>【実施者】</p> <p>職能委員：5名</p> <p>実践事例発表者：2名</p> <p>実践事例発表者指導者：1名</p> <p>コーディネーター：1名</p> <p style="text-align: right;">計：9名</p>
	<p>【実施理由】</p> <p>第1回事前会議を受けて、事例検討内容や運営等を決定する。</p>
	<p>【内容】</p> <p>実践事例の確認</p> <p>グループワークの視点と午前中の講義・演習、午後の講義と関連性を持たせ運営方法の確認</p> <p>グループ分け 当日の委員やコーディネーターの役割の確認</p> <p>今後の講義やグループワークの運営についてはメールにより共通理解していく</p>

## 周知方法

- 行政：看護協会から保健所と市町村に通知  
県人材育成担当者から保健所と市町村に開催のお知らせ
- 産業：看護協会から保険者協議会会員に通知  
産業保健師看護師連絡協議会に職能委員長からメールで開催案内
- 医療：看護協会から会員所属の長及び保健師担当に通知
- その他：協会の所属する機関および個人会員に看護協会から通知

## 保健指導ミーティングの実施

### プログラム構成

#### ◆プログラム

- 10:00 開会
- 10:00～10:20 あいさつ・保健指導ミーティングのねらい
- 10:20～11:20 講義・演習「保健指導従事者の人材育成」
- 11:20～11:50 個別指導実践事例発表
- 11:50～12:50 昼食
- 12:50～14:40 グループ討議Ⅰ 個別指導実践事例を基にして実施  
(13:00)「いいところ探し」の読み取り  
(13:25) ロールプレイ
- 14:40～15:00 休憩
- 15:00～15:40 講話「保健師の保健指導とは」
- 15:40～16:00 グループ討議Ⅱ これからの保健指導
- 16:00 閉会

### 実践事例発表

#### 発表内容の抜粋(事例発表者：全国健康保険協会茨城県支部)

- 発表者：全国健康保険協会茨城県支部 中山聡子氏
- 概要 ～協会けんぽの人材育成の実際
- ・保健指導が武器である保健師の人材育成の取り組みの実際を、保健指導者の離職率と保健指導者の中断率からグラフ化し目に見えるように発表
  - ・人材育成の取り組みや保健指導者がマンネリ化しないようまた保健師活動の効率化のためインターネットを利用することによる保健指導実施率のアップ、個々にあったメール支援の実施により中断率が下がっているという実績など保健指導の効果の紹介
  - ・個人スキルの育成として、対象者の生活記録票（表）への文書支援として「褒めポイント探し」やエビデンスに基づき少し先を見通す支援の大切さを紹介しながら研修会を実施
  - ・リーダーとメンバーの役割とグループワークをする際の留意点について説明
  - ・グループ活動において、褒めることの重要性とプラスのストロークの実際について演習

#### 発表内容の抜粋(事例発表者：筑波メディカルセンター総合健診センター)

- 発表者 筑波メディカルセンター総合健診センター 菊池有紗氏
- 概要
- ～セルフモニタリングが減量に活かされなかった事例～
- 2年連続で特定保健指導の対象となった50歳代男性への6ヶ月間の支援した経過を発表。本人像、設定目標と保健師の言動と反応が解りやすくまとめられ、本人記載のチェックシートも提供された。中間評価時期である3か月目の面接では、チェックシートから体重減少という成果があがっていないことが判明している。

構成	5～6人 × 5グループ
テーマ	<p>1 個別実践事例<sup>2</sup>から日頃の保健指導を振り返る</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事例提示資料より「いいとこさがし」の読み取り</li> <li>・ロールプレイ：探したいところを基にして3か月目の面接を試みよう</li> </ul> <p>2 目指す保健指導を考える</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・方法として講話，グループワークの実施</li> </ul> <p style="text-align: center;">講話「保健師の保健指導とは」つくば国際大学 野原真理氏</p>
ねらい	<p>人と人の関係がよくなるための一つとして【褒める】という行為がある。対象者のいいところを探し、伝えるために面接の演習を行う。</p> <p>日頃の保健指導についての振り返りの機会とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個別指導、集団指導の方法・内容に興味を持ち、それを自分の仕事に生かすことができる。</li> <li>・異なる職場の同じ職種の仲間と業務に関して共有できる。</li> </ul>
工夫点 (ファシリテートした際の工夫点、留意点も含む)	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 全員がロールプレイを体験できるようにグループ構成を工夫した。</li> <li>② 自分で考え、グループで発表し、その後、全体で共有することにより理解を深めることができた。</li> <li>③ ホワイトボードを活用して、参加者の意識を集中させた。</li> <li>④ 最後に、自分の言葉でこれからの目指す保健指導について話をする時間を設けた。</li> </ol>

## 保健指導ミーティングの評価

### アウトカム

#### ◆参加者の発言・反応（直後）（アンケート結果より抜粋）

- 保健師の自己満足のみで終わらないような面接指導を行っていきたい。野原先生の講義を聞いて、保健師だからできる保健指導を目指したい。
- 様々な経験年数、職場の方と一緒に学ぶことができとても良かった。自分では考えつかないこともたくさんできたので吸収したいと思った。ロールプレイングやグループワークはどちらかという苦手だが、今日は学びの多いものばかりで楽しくできた。
- 褒めることの効用実践をされた研修の進め方が大変勉強になりました。
- とても楽しい研修だった。自分の振り返りになり、今後頑張ろうと思えた。
- ロールプレイでは、本人は認められたい、褒めてほしいという対象者の気持ちがあり、資料の見方も勉強でき、よし頑張るぞと思った。
- 私ははじめの講義にもあったが、保健師とのずれ・本人の思いとのずれを直したい。本人のモチベーションを上げられるように技術を上げたい。

- 本人の思いを引き出す指導が大切。ポイントをしばって指導。何が大事なが見えるよう具体的な形で。相手の思いと自分の思いが近づくと良い。

◆参加者の発言・反応（1か月後）（アンケート結果より抜粋）

- 相手の知りたいこと、ほめてほしいことと私（保健師）の伝えたいこと、ほめたことが同じとは限らないので、相手の話を引き出しながらも保健師としての思いを伝えられる相談スキルとコミュニケーションが強化すべきスキルだと思った。
- 保健指導ミーティングを学んでから、相手（対象者）をほめる、良いところを積極的に探して、伝えるようになった。つい、悪いところを見つけてしまいがちだったので。

◆参加者アンケートからの評価

1.当日アンケート集計結果から

（回収率 100%）

1) 保健指導ミーティング参加者の到達状況

- 「参加して学ぶことができた」の項目で全員がそう思うと回答。
- 「実践事例を振り返るのに役立つ」「自身の実践が想起できた」の項目では、ほぼ全員が「できた」と回答。
- 「今後のスキルアップへの動機づけ」「強化するスキルの明確化」の項目は、92.3%が「できた」と回答

2) 参加者の満足度

- グループ討議が自身にとって役立つ内容であった」の項目では、96%が「そう思う」と回答し77%が「非常にそう思う」と回答。

3) 参加者同士のネットワーク

- 「参加者同士の交流ができた」の項目では、全員が「できた」と回答。
- 「今後もやり取りできる関係づくり」の項目では、約85%が「できた」と回答。

4) 人材育成に関すること（都道府県内の保健師向け研修の現状等に関すること）

- 茨城県保健予防課として茨城県人材育成指針等に基づき行政保健師の研修を体系的に実施している。新任期は原則採用1年目を対象に「地域診断」を、中堅期Ⅰは経験6年目以上を対象に「教えて学ぶ」をテーマとしている。新人保健師の到達目標として、【個人・家族等】の健康課題の解決支援がもとめられているが、個に対する支援の力量形成に関するOFFJTは少ない。また、当職では、産業分野の新任期研修は把握できていない。これらの現状から行政と産業領域を超えて新任期保健師がともに参加でき、新任期保健師の個別支援の力量形成につながる本研修の必要度は増している。

企画者による企画や実施内容等の評価

【評価基準】

4. 非常にそう思う(とてもできた)
3. ややそう思う(ややできた)
2. あまりそう思わない(あまりできなかった)
1. 全くそう思わない(全くできなかった)

	評価項目	評価
実施体制	①企画、評価の体制は整っていましたか	4
	②マンパワーの量は見合っていましたか	4
	③組織や団体、資源の有効活用ができましたか	4
企画	④企画の目的と目標は、一致していましたか	4
	⑤企画の目的と実施内容(実践事例検討会)が一致していましたか	4
	⑥目標と実施内容(実践事例検討会)が一致していましたか	4
準備	⑦目標の達成のために、実践事例の準備が行えましたか	4
	⑧目標が達成できるように、グループ討議の準備を十分に行えましたか	4
	⑨実践事例検討会が効果的にできることに配慮して、多領域に周知を行えましたか	4
実施内容	⑩目標が達成できるように、プログラムを進めることができましたか	4
	⑪目標が達成できるように、実践事例を提供できましたか	4
	⑫目標が達成できるように、グループ討議を進めることができましたか	4
	⑬紹介した実践事例は、参加した保健師にとって、自身の実践と対比しながら検討できるような内容でしたか	4
	⑭グループ討議は、参加者一人一人が発言できるように進めることができましたか	4
ネットワーク	⑮地域や産業等領域の異なる保健指導実施者との意見交換・情報交換の場となっていましたか	4
	⑯業務に関連する情報交換ができるような関係性を構築することができましたか (パーソナルネットワーク)	3
	⑰業務に関連する連携ができるような関係性を構築することができましたか(ソーシャルネットワーク)	3

## 考察

### (実施体制①～③)

- ・組織・団体の協力を得ながら実施することができた。

### ● (企画④～⑥)

- ・興味のあるテーマだったから、保健指導のスキルアップをしたいからといった自発的な理由による参加が多かった。

- ・テーマ体制の積み重ねを大切に実施できたので、内容が充実したものとなった。

(人材育成をテーマにしていく事、講演内容の充実)

- ・今回のテーマは新任期にとって実践的で興味をひいた。

### ● (準備⑦～⑨)

- ・ねらいとしては新任期・中堅期ともに参加を促したかったが、新任期は26人中19人だったが、中堅期は5人と参加者が少なかった。今後は周知方法を工夫していく必要がある。

### ● (実施内容⑩～⑭)

- ・目的を達成するため、講義とグループワークを組み合わせやすめることができた。

- ・グループワークの中で自分のこれからの保健指導について話することができた。

- ・ロールプレイで保健師・住民・観察者の役を誰もが交代しながら実施できたことにより、それぞれの気持ちを考えることができた。

### ● (ネットワーク⑮～⑰)

- ・領域が異なる保健師同士のグループ討議であり、休憩時間も意識して心持ち長くとったため活発に情報交換できていた。

## 所感

私たちは、日常的に保健指導を行っているが、職場内で自分の関わりを振り返ることや同僚等に相談することや情報交換することは少なくなってきた。ものの見方や考え方は保健師の実践能力の基盤でそのうえに対人支援能力等が積み重なると考えると、自らの実践を振りかえりこれらに働きかける保健指導ミーティングは大変有意義なものと実感した。県をはじめ関係機関と連携し、県内保健師の人材育成のひとつとして位置づけられるよう取り組んでいく。

また、保健指導ミーティングを定着させ継続するとともに、身近な地域単位で実施する機運が高まるよう取り組んでいきたい。



開催地：栃木県分

## 保健指導ミーティングの企画

### 目的

- ① 新任期の保健師が実践事例をとおして、保健指導や支援のあり方を検討することで保健指導のスキルアップを図る。
- ② 新任期の保健師を指導するプリセプターの役割を果たす中堅期の保健師が、新任期の実践事例の検討に加わり助言することで新任期の保健指導のあり方を考える。
- ③ 階層や職域を越えた保健師間のネットワークの強化を図る。

### 目標（到達度）

- ① 参加者が自分自身の保健指導を振り返ることができる。
- ② 保健指導を意識化する（語る）ことができる。
- ③ 各々が強化しなければならない保健指導スキルに気づく。

## 保健指導ミーティングの準備

### 保健指導ミーティングのための打合せ

保健師職能委員会	
【実施日】 H25/9/10 0.5 時間程度 (14:30-15:00)	【実施者】 職能委員：9名  計：9名  【実施理由】 栃木県で初めて開催する保健指導ミーティングについて、保健指導ミーティングとはなにか、職能委員間で目的や内容について情報共有し、計画したテーマ及び事業内容の確認を行う。  【内容】 ① 事業計画の確認 ・新任期保健師（5年目まで）、中堅期6年～20年までを確認 ・テーマ：生活習慣病、母子、精神について確認 ・新任期保健師と新任期保健師の指導をする中堅期（プリセプター）保健師を対象とし保健指導のスキルアップと、新任期保健師の指導のあり方及びプリセプターの役割を考えるという内容で保健指導ミーティングを行うことを確認 ・実施時期、依頼する講師について確認
保健師職能委員会	
【実施日】 H25/10/12 0.5 時間程度 (10:30-11:00)	【実施者】 職能委員：7名  計：7名  【実施理由】 保健指導ミーティングの実施日と実施要項の検討  【内容】 ① 実施日の決定 平成26年1月18日（土）10:00～16:00 ② 実施要項の作成 目的、実施方法（グループワークⅠ、講義、グループワークⅡ）について参加したくなる内容の工夫、講師、ファシリテーターについて確認 ③ 受講者の募集について検討 保健師意識調査の送付先に実施通知を送付する、ホームページへの掲載
保健師職能委員会	
【実施日】 H25/12/12 1.5 時間程度	【実施者】 職能委員：8名  計：8名

(15:30-17:00)	【実施理由】 保健指導ミーティングの実践事例の具体的な内容について検討、確認する。
	【内容】 ・ミーティング申込者の確認 ・実践事例の選定 実践事例は申込者新任期全員に提出してもらいその中からグループワークの進行に適した事例を選定する。 ・実践事例提出様式について検討 ・申込者に実践事例提出依頼を発送することとした ・ファシリテーターの役割について
<b>保健師職能委員会</b>	
【実施日】 H26/1/12 1.5 時間程度 (10:30-12:00)	【実施者】 職能委員：8名 <span style="float: right;">計：8名</span>
	【実施理由】 保健指導ミーティング実施についての進め方及び実践事例発表等の具体的な内容について確認をする。 【内容】 ① 当日の全体構成について ・ミーティングの全体構成について ・グループ分け ・実践事例の発表者の決定依頼 ② 実践事例について 発表内容、発表方法について確認 ③ ファシリテーターの役割確認 保健指導ミーティングの手引きを参考に、進行プログラムを作成、その進行プログラムを参考に進めることを確認 ④ 講師の役割を確認 ・講話「特性に応じた保健指導をめざす新任期の保健指導とは」 ・コメント ⑤ 進行及びコーディネーターの役割を確認

## 周知方法

- ・実施要項を栃木県看護協会のホームページにアップし広く周知
  - ・行政、産業、医療、福祉、その他の保健師の所属する勤務先（会員外も含む）に看護協会から郵送にて開催通知を送付し周知。
- ※今年度、保健師の会員拡大を狙い保健師の所属する勤務先に調査を実施した。調査の送付先は2年に1回実施する従事者届けの送付先を県に依頼しデータを取得。そのデータを活用し開催通知を送付。

## 保健指導ミーティングの実施

### プログラム構成

#### ◆プログラム

10:00	開会
10:00	あいさつ オリエンテーション
10:10～10:40	実践事例発表（グループ内）母子、精神、生活習慣病
10:40～11:50	グループ討議Ⅰ「実践事例の発表をきいて各自実践の振り返り」
11:50～12:20	全体発表
12:20～13:20	昼食・休憩
13:20～14:40	講話「特性に応じた保健指導を目指す新任期の保健指導とは」
14:40～15:30	グループ討議Ⅱ「今後取り組む指導支援の確認」
15:30～16:00	全体発表、講師コメント
16:00	閉会

### 実践事例発表

#### ① 精神保健

##### 発表内容の抜粋(事例発表者：今市健康福祉センター・烏山健康福祉センター 保健師)

・精神疾患（統合失調症）と難病（潰瘍性大腸炎）を併せ持ち経済的に困窮しており、生活していく上で課題をたくさん抱えている事例であるが、本人からニーズを引き出すことができず課題に応じた支援が難しい事例へ支援の過程で、事例のアセスメントの不十分さ、コミュニケーションの難しさ、支援者として信頼関係を築くために必要なコミュニケーションの未熟さに気づいた事例について語られた。

・家族全員が精神的な課題をかかえておりキーパーソンがいない。困っているのに支援を求めない人にどのように関わりをもったらよいか。保健師として迷いながら関わっているが、困ったときの支援の求め方について、一人で抱え込まないことの大切さに気づいた事例について語られた。

### グループ討議

構成	6人×2グループ（1グループ7名）
テーマ	<p>自らの保健指導の状況を意識し、行動変容が必要なことに気づき話すことができる。</p> <p>① 自分の保健指導の振り返り</p> <p>② 保健指導を実施して感じたこと</p> <p>③ 今後どのように取り組むか、保健指導に改善したいと思う点を考える</p> <p>④ 具体的に行動しようと思う内容について言語化し表現する。</p> <p>⑤ 新任期の保健師として必要な支援は、手伝ってもらいたいことは</p>
ねらい	<p>① では実践事例の発表をきいて、良かったところ、関心を持ったところについて発言し、自らが実践した事例の振り返るきっかけとする。メンバー同士が意見交換し今後のネットワークにつなげる。</p> <p>② では自分の実践した事例にどのような指導を行えば事例に変化が見られる</p>

	<p>か関わる方法について考え表現する。</p> <p>③ では今後どのようにしたいのか具体的に考える。</p> <p>④ では具体的に行動するポイント、指導を参加者の前で話す。</p> <p>⑤ では困っているときにどのような支援が欲しかったか語る。プリセプターは自分の経験を語る。</p>
工夫点 (ファシリテートした際の工夫点、留意点も含む)	<p>① 保健指導ミーティングの趣旨を再確認して開始した。</p> <p>② 実践事例の発表をきいて、参加者の自らの保健指導の振り返りをさせるために事例の共通の話題をさがし、参加者にその度投げかけた。</p> <p>③ ファシリテーター自身の経験を織り交ぜながら進めたことで、参加者が実践していきたいと思う具体的な行動ポイントに気づくことができた。</p> <p>④ 全員が必ず意見を言うように声かけていった。</p>

## ② 母子保健

### 発表内容の抜粋(事例発表者：宇都宮市・上三川町 保健師)

- ・1歳6ヶ月健診において言葉の遅れがあり経過観察となった児・父親がうつ状態で母親は父親への対応で育児負担が見られており心理面のフォローとして保健師の介入が開始となった。訪問を提案したが、訪問の受入れが悪く電話のみでの関わりだったケースについて、信頼関係を気づくことの難しさと一歩踏み込むことに躊躇してしまい家族を見立てる力の弱さについて気づいた事例について語られた。
- ・被虐待児ででんかんと併せ持つ母親に対する育児支援の経過のなかで、衝動行為への迅速な対応と関係機関と緊密な連携のもと支援していくための事例の見立ての大切さについて気づいた事例について語られた。

## グループ討議

構成	6人×2グループ
テーマ	<p>自らの保健指導の状況を意識し、行動変容が必要なことに気づき話することができる。</p> <p>① 自分の保健指導の振り返り</p> <p>② 保健指導を実施して感じたこと</p> <p>③ 今後どのように取り組むか、保健指導に改善したいと思う点を考える</p> <p>④ 具体的に行動しようと思う内容について言語化し表現する。</p> <p>⑤ 新任期の保健師として必要な支援は、手伝ってもらいたいことは</p>
ねらい	<p>① では実践事例の発表をきいて、良かったところ、関心を持ったところについて発言し、自らが実践した事例の振り返りきっかけとする。メンバー同士が意見交換し今後のネットワークにつなげる。</p> <p>② では自分の実践した事例にどのような指導を行えば事例に変化が見られるか関わる方法について考え表現する。</p> <p>③ では今後どのようにしたいのか具体的に考える。</p> <p>④ では具体的に行動するポイント、指導を参加者の前で話す。</p> <p>⑤ では困っているときにどのような支援が欲しかったか語る。プリセプター</p>

	は自分の経験を語る。
工夫点 (ファシリテートした際の工夫点、留意点も含む)	<p>① 参加者が発表された実践事例の理解が深まるよう特に衝動行為等の問題行動がどのようなときに起きるのか、事例についての質問時間を多くとった。</p> <p>② 実践事例の発表をきいて、参加者の自らの保健指導の振り返りをさせるために事例の共通の話題をさがし、参加者にその度投げかけた。</p> <p>③ ファシリテーター自身の経験を織り交ぜながら進行したことで、参加者が実践していきたいと思う具体的な行動ポイントに気づくことができた。</p> <p>④ 言いたらないことはないかどうか確認しながら進行した。</p>

### ③ 生活習慣病

発表内容の抜粋(事例発表者：上三川町・宇都宮市・大田原市 保健師)	
	<p>・民生委員からの相談で支援を開始した療育手帳 B2 を所持し糖尿病の事例、保健師の関わりで医療機関を受診することができたが、本人や家族に治療の必要を感じておらず、病気が進行しているにもかかわらず危機意識なく治療が中断されている。経済的な課題も抱えておりキーパーソンである父親は働いており会社を休み本人を受診させることができない。家族全体のメンタルが低く改善が図れない経過について意識を変えさせることの難しさに語られた。</p> <p>・脳梗塞、高血圧、高脂血症、狭心症を併せ持つ独居で生活保護受給中の事例について、本人の病識が乏しく知的能力も低さが疑われるため、保健指導の実践が難しく援助方針の設定について困難を感じている支援の現状について報告された。</p> <p>・肝細胞癌、慢性腎不全、導尿管、高血圧を合併しており食事指導や、生活改善の必要な事例であるが受入れ拒否があり、円滑な支援関係を結ぶにはどのようなアセスメントやアプローチが必要か等支援に関する悩みについて語られた。</p>

### グループ討議

構成	6人×3グループ(1グループ5名)
テーマ	<p>自らの保健指導の状況を意識し、行動変容が必要なことに気づき話することができる。</p> <p>① 自分の保健指導の振り返り</p> <p>② 保健指導を実施して感じたこと</p> <p>③ 今後どのように取り組むか、保健指導に改善したいと思う点を考える。</p> <p>④ 具体的に行動しようと思う内容について言語化し表現する。</p> <p>⑤ 新任期の保健師として必要な支援は、手伝ってもらいたいことは</p>
ねらい	<p>① では実践事例の発表をきいて、良かったところ、関心を持ったところについて発言し、自らが実践した事例の振り返るきっかけとする。メンバー同士が意見交換し今後のネットワークにつなげる。</p> <p>② では自分の実践した事例にどのような指導を行えば事例に変化が見られるか関わる方法について考え表現する。</p>

	<p>③ では今後どのようにしたいのか具体的に考える。</p> <p>④ では具体的に行動するポイント、指導を参加者の前で話す。</p> <p>⑤ では困っているときにどのような支援が欲しかったか語る。プリセプターは自分の経験を語る。</p>
<p>工夫点 (ファシリテートした際の工夫点、留意点も含む)</p>	<p>① 参加者が発表された実践事例の理解が深まるよう事例の状況現象についての質問時間を多くとった。</p> <p>② 実践事例の発表をきいて、参加者の自らの保健指導の振り返りをさせるために事例の共通の話題をさがし、参加者にその度投げかけた。</p> <p>③ 関係機関との連携の必要性、一人で悩むことがないよう、職場の支援体制や関係機関との関係や保健、医療、福祉サービス利用の大切さに気づけるよう、参加者の知識について確認した。</p> <p>④ ファシリテーター自身の経験を織り交ぜながら進行したことで、参加者が実践していきたいと思う具体的な行動ポイントに気づくことができた。</p> <p>⑤ 言いたらないことはないかどうか確認しながら進行した。</p>

#### ◆参加者の発言・反応(アンケート結果より抜粋)

- 自分の対応についてよい振り返りとなった。自身の考えを発信する機会があることで改めて保健師として頑張ろうと思えた。
- 先輩や関係機関の顔色を気にするような支援になっていると気づいた。改めて対象を念頭に置くという認識を思い出すことができた。
- グループワークをとおし今まで関わったことのない方と情報交換ができ参加してよかった。
- 他分野の異なる年齢層の保健師と情報交換できる機会があるとよいと思った。
- 同世代との交流で悩みや疑問の解消につながった。
- 自分の課題を明確にすることができた。保健師活動へのモチベーションアップにもつながった。
- 自分がプリセプターであるという認識が欠けていたということが今回の保健指導ミーティングで気づくことができた。
- 人数に対する教室のサイズが小さい。研修内容に合わせて適切な部屋を準備することで研修の効果を上げることができるのではないか。

#### ◆参加者アンケートからの評価

##### 1.当日アンケート集計結果から

##### 1) 保健指導ミーティング参加者の到達状況

- 保健指導ミーティング参加して学ぶことができたか：非常にそう思う（80.5%）ややそう思う（19.5%）
- 実践事例発表を聞くことで、自身の実践を想起することができたか：非常にそう思う（73.2%）ややそう思う（24.4%）
- グループ討議で自身の保健指導の経験を話すことができたか：非常にそう思う（53.7%）ややそう思う（43.9%）
- 自身の保健指導について今後の課題に気づくことができたか：非常にそう思う（61.0%）ややそう思う（39.0%）
- 今後のスキルアップへの動機づけができたか：非常にそう思う（61.0%）ややそう思う（39.0%）
- 強化すべき自身のスキルを明確にすることができたか：非常にそう思う（51.2%）ややそう思う（48.8%）

以上の結果から、実践事例の発表をきいて自己の事例の振り返りをする事、今後の自らの課題に気づくこと、スキルアップへの動機付け等について非常にそう思うと回答している方が優位であったことから、参加者の目標が達成できたものと思われる。

##### 2) 参加者の満足度

- 実践事例発表は、ご自身の実践を振り返るのに役立ったか：非常にそう思う（73.2%）ややそう思う（24.4%）
- グループ討議は、ご自身にとって役立つ内容であったか：非常にそう思う（65.9%）ややそう思う（34.1%）



- 時間配分は適切か：非常にそう思う（51.2%） ややそう思う（43.9%）
- 開催回数は適切でしたか：非常にそう思う（35.0%） ややそう思う（62.5%）

開催回数についてのみ、非常にそう思うと答えている方よりもややそう思うと答えている方のほうが多い状況であったが、それ以外は非常にそう思うと答えている方が多いことから、概ね参加者の満足度は高いものであったと思われる。

### 3) 参加者同士のネットワーク

- 参加者同士の交流ができたか：非常にそう思う（39.0%） ややそう思う（58.5%）
  - 今後もやりとりできる関係づくりができたか：非常にそう思う（14.6%） ややそう思う（56.1%）
- 他のアンケート結果と比較するとややそう思うと答えている方のほうが多いことから、参加者同士のネットワーク構築が達成できたとは言いがたい。

### 4) 人材育成に関すること（都道府県内の保健師向け研修の現状等に関すること）

- 保健師とはということを改めて考えるような研修：ある（53.7%） ない（24.4%） 不明（22.0%）
- 新任保健師とプリセプター保健師と一緒に参加できるような研修：ある（37.5%） ない（42.5%） 不明（20.0%）
- 行政、産業の領域を超えて、新任保健師が共に参加出来る研修：ある（36.6%） ない（34.1%） 不明（29.3%）
- 新任保健師と現任保健師の交流ができる研修：ある（55.0%） ない（25.0%） 不明（20.0%）
- 事例を通し参加型で学べる研修：ある（72.5%） ない（12.5%） 不明（15.0%）
- どの時期から参加するとよいか：新任期（82.9%） 中堅期（4.9%） 管理者（0.0%） 全経験年数（12.2%）
- 望む研修は  
 保健師とはということを改めて考えるような研修：16.5%  
 新任保健師とプリセプター保健師と一緒に参加できるような研修：20.4%  
 行政、産業の領域を超えて、新任保健師が共に参加出来る研修：18.4%  
 新任保健師と現任保健師の交流ができる研修：19.4%  
 事例を通し参加型で学べる研修：25.2%

栃木県独自で加えた、次年度の保健指導ミーティング開催への参加については92.7%の方が参加すると回答しており保健指導ミーティング開催の期待が高いことが分かった。

企画者による企画や実施内容等の評価

<p><b>【評価基準】</b>                  4. 非常にそう思う(とてもできた)                  3. ややそう思う(ややできた)                  2. あまりそう思わない(あまりできなかった)                  1. 全くそう思わない(全くできなかった)</p>
--

	評価項目	評価
実施体制	① 企画、評価の体制は整っていましたか	3
	② マンパワーの量は見合っていましたか	3
	③ 組織や団体、資源の有効活用ができましたか	4
企画	④ 企画の目的と目標は、一致していましたか	4
	⑤ 企画の目的と実施内容(実践事例検討会)が一致していましたか	4
	⑥ 目標と実施内容(実践事例検討会)が一致していましたか	4
準備	⑦ 目標の達成のために、実践事例の準備が行えましたか	4
	⑧ 目標が達成できるように、グループ討議の準備を十分に行えましたか	4
	⑨ 実践事例検討会が効果的にできることに配慮して、多領域に周知を行えましたか	4
実施内容	⑩ 目標が達成できるように、プログラムを進めることができましたか	4
	⑪ 目標が達成できるように、実践事例を提供できましたか	4
	⑫ 目標が達成できるように、グループ討議を進めることができましたか	3
	⑬ 紹介した実践事例は、参加した保健師にとって、自身の実践と対比しながら検討できるような内容でしたか	4
	⑭ グループ討議は、参加者一人一人が発言できるように進めることができましたか	4
ネットワーク	⑮ 地域や産業等領域の異なる保健指導実施者との意見交換・情報交換の場となっていましたか	4
	⑯ 業務に関連する情報交換ができるような関係性を構築することができましたか(パーソナルネットワーク)	3
	⑰ 業務に関連する連携ができるような関係性を構築することができましたか(ソーシャルネットワーク)	3

- ①～③について、

企画について、検討委員会等立ち上げる事無く保健師職能委員のみで行ったため、職能委員の負担が大きかったが、マンパワー的には適当であったと思われる。

実施当日は、コーディネーター・講師・ファシリテーター事務局との役割分担のもと実施できたことから円滑な運営ができたと考えられる。しかし、ファシリテーターが進行と記録を行いながら実施したため負担が大きかったことから、記録を担当する者が必要であったと思われる。

行政のみならず、企業等にも働きかけを行い参加者が増えた。また、協働企画者として県の看護関係の主管課に依頼しコーディネーターの役割を担ってもらったこと、看護学部を持つ大学の学部長に講師を依頼し事前打ち合わせに加わっていただいたことで、保健指導ミーティングを円滑に進めることができた。
- ④～⑥について、新任期の保健師を対象とし、参加者を多くするために母子保健、精神保健、生活習慣病と多様なテーマとしたが、保健指導の振り返り、保健指導を語る、保健指導スキルを高めるといった各テーマに共通の目標設定をしたため目的と実施内容がぶれることなく企画できた。
- ⑦～⑨について、参加予定者すべてに実践事例の提出を依頼したのち、発表事例選定のポイントの検討及び事例の選定ための査読など事前準備を行った。

保健師意識調査（今年度会員拡大の研究の為に実施した調査）の送付先（県内の保健師が所属している勤務先）に周知を図ったことで、他領域から参加者を得ることができた。
- ⑩～⑭について、コーディネーター、ファシリテーター、講師による事前打ち合わせを開催し、プログラムの内容、進行、役割分担について確認したのち実施した。

特にファシリテートするポイントについて、事例検討ではなく、参加者自身の実践事例と対比するためのワークであることを確認し臨んだが、ファシリテーターごとに進行にバラツキがあった。ファシリテートする内容の難しさがあると実施した者より感想が出されている。

参加者一人一人から発言があり、個々のアンケートの結果をみると、保健指導の振り返り、保健指導を語る、保健指導スキルを高めるといった目標が概ね達成していることが確認できた。
- ⑮～⑰について、グループ内での情報交換はされていたが、アンケートの結果、今後やりとりできる関係づくりができたかについては、非常にそう思うと答えている方よりやや思うと答えている方が多い状況であることから関係性の構築には至っていない。

実際のネットワークの活用については、期間を経過してからの状況を評価する必要があると思われる。

## 所感

栃木県において今回初めて保健指導ミーティングを実施した。

企画から実施に至るまで初めての経験であったため非常に不安であったが、保健指導ミーティングの手引きを活用し実施することができたため効果的な展開ができた。今後、更なる手引きの活用推進をおこなうことで保健指導ミーティングのレベルアップが図れると考えられる。

また、今回は保健師職能委員会が中心となり企画準備実施を行ったが、事前の打合わせは重要不可欠なものでありかなりの時間を要することから、保健師職能委員の負担を軽減するためにも、日本看護協会が進めるような実行委員会の設置が必要であると感じた。

当日の運営の中で一番不安であったことは、グループの進行を行うファシリテーターの技術であり、ファシリテーターの個々のスキルがグループワークの運営や参加メンバーの学習効果に影響を与えることと危惧されることから、ファシリテーターの資質を高めるための研修や手引きが必要であると感じた。一定の質を担保したファシリテーターが行えるよう、ファシリテーターの手引き等の作成を希望する。

ミーティング参加者においては、同世代との交流や今まで関わったことのない方との情報交換により悩みを抱えるのが自分だけではないこと、自分の保健指導の振り返りからスキルアップにつながるということを体験することができ、効果的なミーティングであると認識できたことがアンケートにより確認できた。

また、講師による講話「特性に応じた保健指導を目指す新任期の保健指導とは」を保健指導ミーティングに加えたことで、グループワークで得た参加者個々の学びを再確認することができ効果的な事展開ができたのではないかと考えている。

本事業の効果の高さが改めて認識できたことから、次年度も事業の継続を希望する。

開催地：石川県分

## 保健指導ミーティングの企画

### 目的

- ① 新任期及び指導保健師の保健指導のスキルアップを図る
- ② 保健師教育実習指導保健師の実習のあり方を検討する。
- ③ 指導保健師・実習担当保健師等所属組織全体として共有認識を持って保健師育成を考える
- ④ 市町・県の行政機関や産業（職域）及び医療機関の検診機関等の民間機関といった様々な分野で活動している保健師のネットワークづくりとネットワークの推進を目的とする。

### 目標（到達度）

- ① 新任期保健師：保健師活動の実践をPDCAサイクルに添って報告することができる
- ② 指導保健師：新任期保健師に指導助言することの問題点課題を見いだすことができる
- ③ 実習指導保健師：保健師教育で学ばせたい保健師実習とはなにかを語ることができる
- ④ 保健指導を実施している関係者同士が今回の研修会で顔の見える連携が可能になる。
- ⑤ 各機関で保健指導を実施している保健師が、自分自身の行っている保健指導について見直す。

## 保健指導ミーティングの準備

### 保健指導ミーティングのための打合せ

<b>保健師職能委員会</b>	
<b>【実施日】</b> H25/10/31 2時間程度 (18:00-20:00)	<b>【実施者】</b> 職能委員：7名(藤井、北野、道下、亀田、西川、徳本、飯田) 計：7名 <b>【実施理由】</b> 保健指導ミーティング実施計画の立案について <b>【内容】</b> 日時、会場 実施目的・内容の確認 講師、報告者の候補者選定等
<b>保健師職能委員会</b>	
<b>【実施日】</b> H25/12/5 1時間程度 (18:00-20:00)	<b>【実施者】</b> 職能委員：4名(道下、亀田、北野、飯田) 実践事例発表者：5名(メールにて依頼及び打ち合わせ実施) 計：9名 <b>【実施理由】</b> 当時の進行の確認 <b>【内容】</b> 職能委員の役割分担 実践報告者の報告内容の確認(資料含む)および進行について

### 周知方法

- ・石川県健康福祉部健康推進課に「後援」依頼を実施し、県の協力を求めた。
- ・石川県看護協会から保健師会員の39施設長に文書発出
- ・行政機関(市町・保健福祉センター等)：メールにて総括的保健師に発信(計3回実施)。
- ・産業保健師統括者(保健師職能委員)：各企業等産業保健師にメールにて案内通信実施
- ・3看護大学(地域看護学等教授)にメールにて案内(大学は学生掲示板に添付し紹介)
- ・石川県保健師長会理事にメール送信

## 保健指導ミーティングの実施

### プログラム構成

「平成 25 年度保健指導ミーティング in 石川」

9 時 3 0 分～：開会挨拶

第 1 部：能登から南加賀、行政・企業等で働く自称新任者保健師が語る会

9 時 4 0 分～：グループワークの趣旨説明

9 時 4 5 分～：グループワーク（参加者の状況からグループ分け）

1 0 時 3 0 分～：新任者保健師活動の実践報告 報告者：市町・保健所・企業の新任者保健師

1 1 時 1 5 分～：ミニ講演と助言：新任者に体得・経験したいこと・してほしいこと

1 2 時～：食べて語ろう！こころも体もちょっと満腹に！

1 3 時 3 0 分～

第 2 部：保健師教育における実習とは～実習が意味するもの～

1 3 時 3 5 分～：市町や保健所での保健師教育実習の現状

1 4 時 1 5 分～：大阪市の保健師教育における実習の現状

1 5 時 1 5 分～：グループワーク

1 6 時 0 0 分～：グループワークの報告

1 6 時 1 5 分～：助言

### 実践事例発表

#### 発表内容の抜粋

第 1 部 能登～南加賀の行政、企業で働く新任保健師が語る会

\* グループワーク：「こんな仕事しています」

～楽しいこと、悩んでいること、疑問に思うことを出し合おう～

\* 新任者保健師活動の実践報告

報告者：国立大学法人金沢大学保健管理センター 得永美和氏

輪島市健康推進課 加門葉月氏

金沢市駅西福祉健康センター 平床 幸穂氏

講演 「新任者に経験したいこと・してほしいこと」

講師：大分県立看護科学大学 学長 村嶋 幸代 氏

休憩&交流・・・食べて語ろう！心も体も満腹に！

第 2 部 保健師教育における実習とは～実習が意味するもの～

\* 市町や保健所での保健師教育実習の現状

報告者：能登中部保健福祉センター 西出麻美氏

小松市 北島麻美氏

講演 「効果的な公衆衛生看護実習に向けて～大阪市における保健師教育臨地実習の現状」

講師：大阪市健康局健康推進部 朽木 悦子氏

\*グループワーク「石川県のこれからの取組について～みんなで考えよう！  
～」

助言 大分県立看護科学大学  
村嶋 幸代 氏  
大阪市健康局健康推進部  
朽木 悦子 氏

グループ討議

構成	4～6人 ×6グループ
テーマ	<p>講師の関係上、プログラムでは下記のグループワークを実施した</p> <p>第1部 能登～南加賀の行政、企業で働く新任保健師が語る会</p> <p>*グループワーク：「こんな仕事しています」</p> <p>～楽しいこと、悩んでいること、疑問に思うことを出し合おう～</p> <p>① 自己紹介「こんな仕事をしています」</p> <p>② 勤務して楽しいこと・悩んでいること</p> <p>③ みんなはどのように解決しているの</p> <p>④ 今後の課題</p> <p>&lt;グループワークの要約&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地区担当制や業務分担制について各市町や企業の意見を聞くことができた。</li> <li>・経験年数が浅いメンバーなので、先輩・上司への相談についての悩みも出ていた。</li> <li>・病院における保健師の活動を周知して成果を出していく。</li> <li>・看護学生に保健師の活動イメージを持ってもらう。</li> <li>・困ったときは周りに相談する。</li> <li>・若者（学生）のコミュニケーション能力の問題、メンタルヘルスの問題</li> <li>・市内・町内の保健師が顔を合わせ、今していること、役割、悩み、課題を話し合う機会が必要。</li> </ul> <p>第2部 保健師教育における実習とは～実習が意味するもの～</p> <p>*市町や保健所での保健師教育実習の現状</p> <p>報告者：能登中部保健福祉センター 西出麻美氏 小松市 北島麻美氏</p> <p>講演 「効果的な公衆衛生看護実習に向けて～大阪市における保健師教育臨地実習の現状」</p> <p>講師：大阪市健康局健康推進部 朽木 悦子氏</p>



	<p>*グループワーク「石川県のこれからの取組について～みんなで考えよう！～」</p> <p>①石川県の保健師教育実習の現状と大阪市の取り組みから学んだこと</p> <p>②問題点・課題</p> <p>③今後の取り組み方針</p> <p>&lt;グループワークの要約&gt;</p> <p>① 現場にたくさん実習に来てでも保健師志望者が少ない。無理をして一人、例えば結核の訪問に連れて行こうとか思わぬでもないが、保健師になりたいという方でない場合なんとか頑張っ調整しようかと思えない。そこまで自分たちは余裕がない。保健師志望者のみ、例えば訪問に連れて行くとか、何日間か増やして密度の濃い実習にして、2段階に付けるとかになればいい。</p> <p>② 石川県でも、県内で実習の取りまとめをしていたが、各学校の調整をしていかないと、学校側も受け入れ側も大変。</p> <p>③ 受け入れる側が学校を評価するという視点は、私たちがもともと持っていなかった。</p> <p>④ 新たに企業の実習を受け入れるに当たって、何を教えればいいのかというのが、分からない。</p> <p>⑤ 実習指導者は時間・能力も必要。現在指導者の基準がない。実習担当に対する教育もない。</p> <p>⑥ 学生指導で困ったことは、学校と実習担当の役割分担はできていない。</p> <p>⑦ 公衆衛生看護実習における必須体験項目というものがあることを、初めて知った。「公衆衛生看護実習指導計画」というものがあるということも、初めて知った。</p> <p>⑧ 学生時代は、保健師としてどういうことを学ばないといけないかという目標より、大学の先生の教育の一環で、その事業があるから、その事業をどういったことをしているか学ぶということで、受け身の姿勢で受けていた。</p>
ねらい	<p>① 各分野で働く保健師の活動状況を把握し、保健師活動の多様性を認識する。</p> <p>② 保健師間の連携や機関との連携をすること</p> <p>③ PDCA サイクルに基づく活動を意識する</p> <p>④ 保健師教育における保健師養成実習及び新任期保健師教育の現状を語り合い、問題点を共通認識し、今後の課題を明確にする。</p>
工夫点	<p>講師や実践報告である各分野で活躍する保健活動の実態から、新任期保健師教育と保健師養成実習の問題点が明らかになるよう、気づきと課題を引き出すようなファシリテータの助言</p>

## 保健指導ミーティングの評価

### アウトカム

#### ◆参加者の発言・反応(アンケート結果より抜粋)

前記グループワークで記載

#### ◆参加者アンケートからの評価

##### 1 当日アンケート集計結果から

##### 1) 保健指導ミーティング参加者の到達状況

講師の助言もあり、目標は達成できたと考える

##### 2) 参加者の満足度

村嶋講師及び大阪市の取り組みを知り、保健師養成実習の問題点が明確になり、本県の課題について共通認識ができた。石川県の現状を打破するための戦略を講じるまでにはいかないが、各市町に今回の学びを持ち帰り話し合うことから、今後実習問題を認識し、実習のあり方を見直すことになると思われる

##### 3) 参加者同士のネットワーク

企業保健師と自治体保健師、病院保健師の交流ができた。また次世代の学生が多職域で活動する保健師の話聞く場があったことがこれからのネットワークの構築につながると思われる。

##### 4) 人材育成に関すること(都道府県内の保健師向け研修の現状等に関すること)

①県の保健師現任教育担当者、及び市町管理的立場の統括保健師の参加が12月議会開催中のため、参加が少なかったことが残念である。(開催時期を議会中をはずすべきだった)

②しかしながら、平日勤務時間内の当研修を、保健師の現任教育研修として捉え、参加をさせていただいたことから、今回の研修は適当な企画であり、今後の人材育成を図る上で、県・市町が検討しなければならない課題を提供したと思われる。

企画者による企画や実施内容等の評価

【評価基準】

4. 非常にそう思う(とてもできた)
3. ややそう思う(ややできた)
2. あまりそう思わない(あまりできなかった)
1. 全くそう思わない(全くできなかった)

	評価項目	評価
実施体制	① 企画、評価の体制は整っていましたか	3
	② マンパワーの量は見合っていましたか	3
	③ 組織や団体、資源の有効活用ができましたか	4
企画	④ 企画の目的と目標は、一致していましたか	4
	⑤ 企画の目的と実施内容(実践事例検討会)が一致していましたか	4
	⑥ 目標と実施内容(実践事例検討会)が一致していましたか	4
準備	⑦ 目標の達成のために、実践事例の準備が行えましたか	2
	⑧ 目標が達成できるように、グループ討議の準備を十分に行えましたか	2
	⑨ 実践事例検討会が効果的にできることに配慮して、多領域に周知を行えましたか	4
実施内容	⑩ 目標が達成できるように、プログラムを進めることができましたか	3
	⑪ 目標が達成できるように、実践事例を提供できましたか	3
	⑫ 目標が達成できるように、グループ討議を進めることができましたか	3
	⑬ 紹介した実践事例は、参加した保健師にとって、自身の実践と対比しながら検討できるような内容でしたか	4
	⑭ グループ討議は、参加者一人一人が発言できるように進めることができましたか	4
ネットワーク	⑮ 地域や産業等領域の異なる保健指導実施者との意見交換・情報交換の場となっていましたか	4
	⑯ 務に関連する情報交換ができるような関係性を構築することができましたか(パーソナルネットワーク)	4
	⑰ 業務に関連する連携ができるような関係性を構築することができましたか(ソーシャルネットワーク)	4

## 考察

- ① これまでは、土日の勤務時間外に実施してきたが、今回は平日勤務時間内の企画実施を試みた。また、初めて県の後援許可申請をし、後援をとることにより、県の協力をいただいた。このことによって、県及び関係機関市町が、看護協会の研修会を、人材育成のための研修会として認め、新任期の保健師等を参加させていただいたことは、研修企画が的を得ていたと判断する。
- ② 市町統括保健師の参加を期待していたが、議会開催中で参加困難だったことが、企画の反省点である。
- ③ 昼食時間を話し合いにしたこいことから、各分野で働く保健師の交流時間がより充実したと思われる。
- ④ 石川県の場合、保健師教育における養成実習の問題点等、他県の取り組みについての情報も少なく、各大学から提示された内容で実施しているが、今後の保健師活動を見直す場の提供を職能団体として提示していく必要があると思われた。特にその役割を担う、統括保健師や中堅者が、及び企業保健師等各分野の管理的立場が参集し、積極的に議論しなければならない課題であると思う。今回はその契機の間になったと思われる。

## 所感

各分野で活動している保健師が一同に会し、情報交換や検討する場は、看護協会職能委員活動しかないと思う。日本看護協会として予算があると、支部の委員会活動として実施しやすいので、今後ともよろしく御願います。

開催地：岐阜県分

## 保健指導ミーティングの企画

### 目的

- ① 県・市町村に勤務する新任期保健師の保健指導のスキルアップ及びネットワークづくりを図る。
- ② 指導保健師が新任期保健師に対する今後の活動に活かす。

### 目標（到達度）

- ① 新任期の保健師が実施する保健指導の実践事例報告を通じて保健師自身の活動を振り返ることができる。
- ② 報告者自身が強化すべきスキルに気づくことができる。
- ③ 新任期保健師間のネットワークを図ることができる。
- ④ 指導保健師が新任期保健師に対する今後の指導に行かすことができる。

## 保健指導ミーティングの準備

### 保健指導ミーティングのための打合せ

保健師職能委員会	
【実施日】 H26/1/20 4時間程度 (10:00-14:00)	【実施者】 職能委員：6名 専務理事 計：7名
	【実施理由】 事例報告、グループワークのねらいの調整
	【内容】 ・事例報告の読み取りを行い、発表内容の一部修正点を話し合う。 活動を取り組んだきっかけ、取り組んだ時の問題点・苦労したことを盛り込むことを依頼する。 ・11月25日保健師研修会において実施したグループワークのファシリテーターを実施しての反省とグループワークの進め方、ファシリテーターとしての役割を再確認する。 ファシリテーターの共通事項・留意事項の確認 基本とすべき点、参加者が実践事例を通じて自分の不安・できていないところを語るにより課題が整理できるように支援する ・グループ編成とグループワークのねらいを確認 新任期保健師のグループワークのねらい：活動報告を聞いて自分自身の課題を考える。 指導保健師のグループワークのねらい：新任期保健師に対する役割・関わり方を考える。 ・参加者名簿・レジュメ・グループワーク資料の準備

## 周知方法

各市町村（保健センター・包括支援センター・市役所等）、保健師が勤務する施設及び県保健所へ案内を送付した。

県保健師指導担当者から県保健所・市町村の統括的役割を担う保健師へメールにて周知を図った。

保健師職能委員会活動情報通信「Pretty Health News 番外編」を作成し、県保健所・市町村へ配布した。

## 保健指導ミーティングの実施

### プログラム構成

#### ◆プログラム

- 10:00～10:40 (1) 新任期保健師による活動報告  
「中津川市における受動喫煙防止の取組みについて」  
中津川市健康福祉部健康医療課健康支援係 島田 寛子保健師
- 10:40～10:55 (2) 指導保健師としての関わりの報告  
中津川市健康福祉部健康医療課健康支援係  
主任技術主査 和田 あつ子（保健師）
- 11:00～12:30 (3) グループワーク  
媒体の使い方、防止対策に向けての住民への関わり方  
データのまとめ方等についてグループワークを実施
- 13:20～14:00 (4) グループワーク発表
- 14:00～15:30 (5) 講演「新任期における効果的な保健指導を実施するには」  
～新任期に強化すべきものは何か～  
講師 森岡 幸子（前 大阪府健康医療部参事 現 日本看護協会保健師職能委員）
- 15:30～16:00 (6) 質疑応答

### 実践事例発表

#### 発表内容の抜粋(事例発表者：中津川市)

「中津川市における受動喫煙防止の取り組み」

【事業の経過】就職当初、母子保健事業担当から従事。その後、健康づくり事業のたばこ分野担当兼務となり、母子保健分野から取り組む。過去の妊娠届出書より問診項目を検討、喫煙あり妊婦への支援を開始。事業をマニュアル化、母子保健事業計画に妊婦と喫煙に関する部分を盛り込む。一般市民対象の禁煙教室を開始。健康なかつがわ21（第二次）作成し自治会集会施設の状況調査実施、健康推進員活動として受動喫煙防止に取り組む。健康づくり推進協議会メンバーである薬剤師会と連携し薬局にて禁煙相談の開始。

【苦労したこと】たばこ対策に関する情報が少なかった。禁煙の個別支援において、ニコチン依存の状態の理解と指導が困難であった。関係者・関係団体の協力を得るために、根拠・目的・方法を説明できるよう計画をたてることが大変であった。

【振り返り】たばこ対策に関して学んだことが多くあった。いつも一緒に検討してくれる上司がいることが心強い。市民の意見を聞くことができたので、今後の活動に生かしていきたい。

【指導保健師の支援】

新任保健師がたばこに関する勉強会を支援や発表の機会を企画。この学習会がベテラン保健師への気づきや刺激につながった。

構成	5～6人 × 4グループ
テーマ	<p>① 新任期保健師 活動報告を聞いて自分自身の課題を考える。</p> <p>② 指導保健師 新任期保健師に対する役割・関わり方を考える。</p>
ねらい	<p>① では、 参加者各自が自らの活動実施状況を振り返り、明日からの実践に生かせる課題を見いだすことができる。</p> <p>② では、 活動報告を聞き情報交換をすることで、どうすれば新任期保健師を現場で輝かせることができるかを考える。</p>
工夫点 (ファシリテートした際の工夫点、留意点も含む)	<p>① 11月25日保健師研修会において実施したグループワークの振り返りをふまえて、今回の保健指導ミーティングに際し、ファシリテーターとしての心構えを事前に話し合い、グループワークがスムーズに行えるように準備した。</p> <p>② グループは、意見が出しやすいように、経験年数を考慮し編成した。</p> <p>③ グループワークの前に、参加者に対して今回の討議のテーマやねらいを説明し、討議しやすいようにした。</p> <p>④ 参加者が発言しやすいような雰囲気づくりにこころがけた。</p> <p>⑤ 解決策や結論を求めるのではなく、参加者が感じたことを自由に語ってもらえるように声掛けをした。</p>



#### ◆参加者の発言・反応(アンケート結果より抜粋)

- とても良い刺激になり、モチベーションが上がった。
- 保健師の仕事について再認識することができた。
- 今のうちに実践的知識をつけて今後につなげていきたいと思った。

#### ◆参加者アンケートからの評価

##### 1.当日アンケート集計結果から

###### 1) 保健指導ミーティング参加者の到達状況

- 参加者一人ひとりが、明日から何にどう取り組んでいくか、スキルアップの目標は概ね達成できた。

###### 2) 参加者の満足度

- 先ずは、不安やできていないところを出し合い、意見交換を行なう中で、自分はどうするかを見出すことが概ねできた。

###### 3) 参加者同士のネットワーク

- 所属場所の違う保健師同士の間で、顔と顔が見える関係作りができた。

###### 4) 人材育成に関すること(都道府県内の保健師向け研修の現状等に関すること)

- 看護協会の会員か否かにより、県で実施されている研修の受け止め方に若干の違いが見られた。「ある」と答えた項目が比較的会員である保健師に多くみられた。会員であることにより、最新の情報が流れやすく、専門職意識が芽生えているのではないかと考えられる。

企画者による企画や実施内容等の評価

【評価基準】

4. 非常にそう思う(とてもできた)
3. ややそう思う(ややできた)
2. あまりそう思わない(あまりできなかった)
1. 全くそう思わない(全くできなかった)

	評価項目	評価
実施体制	①企画、評価の体制は整っていましたか	4
	②マンパワーの量は見合っていましたか	3
	③組織や団体、資源の有効活用ができましたか	4
企画	④企画の目的と目標は、一致していましたか	4
	⑤企画の目的と実施内容(実践事例検討会)が一致していましたか	4
	⑥目標と実施内容(実践事例検討会)が一致していましたか	4
準備	⑦目標の達成のために、実践事例の準備が行えましたか	4
	⑧目標が達成できるように、グループ討議の準備を十分に行えましたか	4
	⑨実践事例検討会が効果的にできることに配慮して、多領域に周知を行えましたか	3
実施内容	⑩目標が達成できるように、プログラムを進めることができましたか	4
	⑪目標が達成できるように、実践事例を提供できましたか	4
	⑫目標が達成できるように、グループ討議を進めることができましたか	4
	⑬紹介した実践事例は、参加した保健師にとって、自身の実践と対比しながら検討できるような内容でしたか	4
	⑭グループ討議は、参加者一人一人が発言できるように進めることができましたか	4
ネットワーク	⑮地域や産業等領域の異なる保健指導実施者との意見交換・情報交換の場となっていましたか	3
	⑯業務に関連する情報交換ができるような関係性を構築することができましたか(パーソナルネットワーク)	3
	⑰業務に関連する連携ができるような関係性を構築することができましたか(ソーシャルネットワーク)	3

## 考察

- 事前の保健師職能委員会で、目的や、進め方について十分な議論を行ない、課題をしっかりと共有できたことにより、職能委員全員の達成感、充実感は大きかった。
- 事例提供者には、上記話し合いの結果に基づき、企画した側として何を中心に話して欲しいか、事前に頂いた資料をもとに、さらに的を絞りこんで、話題提供をお願いすることができた。このことが、結果的に、グループワークの勧めやすさにつながったと考えられる。
- グループワークの進め方については、ファシリテーターとして、どのようにすれば、参加者一人ひとりが何かを持って帰られるようにできるか、話し合った結果の言語化を図り、自分たち用のメモを作成したことが、準備の達成感、目的の達成感につながったと思う。
- グループワークでは、如何にメンバー全員が語り、交流が図れるか、参加者のパーソナリティーにも影響されるところはあったが、どのファシリテーターも、基本的なところをぶれずに進めることができた。これにより、参加者が実践事例を通して自分の不安やできていないところを語っていく中で、課題を自分のことにシフトして考えることができた。
- この事業に取り組むことによって、職能委員間のきずなもより強くなり、終了後の達成感につながったと思う。
- 産業、地域包括、福祉関係機関の保健師をどう巻き込んでいくか、まだ取り組めておらず、次年度の課題としたい。

## 所感

貴重な機会をいただき、ありがとうございました。

今回、昨年秋に行ったアンケート調査及びセミナー当日のアンケート結果で、看護協会会員と非会員の意識の格差を感じる場所があった。

会員には、様々な情報が流れて来やすいことにより、専門意識が芽生え、向上心が育ってきている事が感じられた。例えば、県が主催している研修は、セミナーアンケートの内容を満たしているにもかかわらず、非会員に「なし」あるいは「不明」にチェックする人が若干多くみられた。また、これからの研修希望も、会員は的を絞った回答が比較的多かったのに対し、非会員では何もかもに○をつけている人が若干多く見られた。

また、会員の参加者は、自分も頑張ろう、現場でもっと保健師としてやれることがあるのではという、意識の変革がみられた。

事務的な業務も増えてきている中、どうしても現場で業務を回す歯車の一つとして埋もれがちで、専門職としての生きがいを見失いそうになる時に、会員であることによって、横のつながりもでき、保健師プライドを保つことができていることを感じる事ができた。



# 資 料





平成 25 年 厚生労働省  
保健指導支援事業 人材育成事業  
保健指導ミーティングの開催  
実施報告

発行日 2014 年 3 月 31 日  
編集 公益社団法人 日本看護協会 健康政策部  
発行 公益社団法人 日本看護協会  
〒150-0001 東京都渋谷区神宮前 5-8-2  
TEL 03-5778-8831 (代表)  
FAX 03-5778-5601 (代表)  
URL <http://www.nurse.or.jp>

---

※本書からの無断転載を禁ずる